

細野日記

―戦中・戦後に在籍した北大予科医学生の記録―

目次

はじめに

細野日記

第一分冊（一九四三年一月～一九四五年四月）	・ ・ ・ 一頁
第二分冊（一九四五年六月～一九四六年五月）	・ ・ ・ 七二頁
第三分冊（一九四七年一月～一九四八年六月）	・ ・ ・ 一〇九頁
第四分冊（一九四九年四月～一九四九年一月）	・ ・ ・ 一六三頁
第五分冊（一九五〇年三月～一九五一年二月）	・ ・ ・ 一九九頁

資料（細野日記の全文コピー）

第一分冊（一九四三年一月～一九四五年四月）	・ ・ ・ 二四一頁
第二分冊（一九四五年六月～一九四六年五月）	・ ・ ・ 三五三頁
第三分冊（一九四七年一月～一九四八年六月）	・ ・ ・ 四〇八頁
第四分冊（一九四九年四月～一九四九年一月）	・ ・ ・ 四八四頁
第五分冊（一九五〇年三月～一九五二年二月）	・ ・ ・ 五三八頁

原著者及び婉子氏のプロフィール ・ ・ ・ 六〇三頁

原著者在籍時の札幌・北大キャンパス写真・六〇四頁

はじめに

今から七九前、太平洋戦争末期の昭和二〇年四月、北海道帝国大学予科医類に東京都町田市出身の細野順三君が入学、恵迪寮に入寮した。細野君は入寮直後から「恵迪寮日記」をつけ始め、医学部に進学した昭和二七年一月まで、日々の出来事から、寮内行事、社会情勢、さらに人生観・宗教観、恋愛論に至るまで綿密に書き綴り、ノート日記は延べ五冊に上った。卒業後、国立相模原病院小児科を経て国立小児病院に昭和五〇年まで勤務。その後、婿養子先の町田市村野病院を引き継ぎ、小児アレルギー研究の先駆者として地域医療に献身されたが、平成二〇年、八二歳で他界された。最近、遺品の中から恵迪寮日記をはじめ、恵迪寮内行事や寮委員会、戦後間もない構内風景などおびただしい写真が見つかり、婉子夫人から「主人が青春の一時を過ごした北大、恵迪寮の史料として役立ててほしい」と、恵迪寮同窓会に寄贈された。

その内容は第一分冊（一九四三年一月～一九四五年四月）に戦中激動期の北大予科白線時代の学生生活、第二分冊（一九四五年六月～一九四六年五月）では太平洋戦争の敗戦に伴う精神的混乱、第三分冊（一九四七年一月～一九四八年六月）恵迪寮の日常と寮務会計の役割、第四分冊（一九四九年四月～一九四九年一月）恋人婉子さんとの婚約の喜び、第五分冊（一九五〇年三月～一九五二年二月）医師を志す医学生としての心構えとその学園生活等で構成されており、全五冊を可能な限り原文のまま入力して冊子体化した。その内容は戦後、恵迪寮（新寮）で寮生活を送った同窓生はもちろん、建て替えられた新々寮の入寮者にとつてまたとない歴史的資料であり、戦中戦後激動期の大学生の軍国主義から戦後民主主義への移行に伴う精神的葛藤を広く知っていただきたく願うものである。

細野日記―戦中・戦後に在籍した北大予科医学生の記録―

著作権者 村野婉子

編註者代表 藤田正一

発行 二〇二四年九月一日

(一社) 北海道大学恵迪寮同窓会

北海道大学クラーク会館内

札幌市北区北八条西七丁目

電話・FAX 〇一一七〇六一三二七六

印刷・製本

川原医薬

東京都板橋区三園一丁目三七―五

電話 〇三―二九七五―六五九一

非売品